

# 大会宣言

日本で唯一の医療産別組織として半世紀にわたって「医療労働者の生活と権利、患者・住民の命と健康を守るたたかい」を統一して進めてきた日本医労連は、結成 50 周年の節目となる第 57 回定期大会を東京浅草ビューホテルで 7 月 24 日から 26 日までの 3 日間、代議員、役員、傍聴者など 340 名の参加で開催しました。

大会初日に開催された 50 周年記念レセプションには不眠不休で医労連運動を支えてきた諸先輩が全国から駆けつけ、また、全労連はじめ労働団体、医療関係団体、弁護士、政党、仲入谷町会など各界各層から激励を頂きました。来賓、大会代議員・役員など 500 名を超えるレセプション参加者は、「歴史的病院スト、夜勤制限闘争、『看護婦確保法』を制定させた看護婦闘争」などスライド紹介された日本医労連 50 年間の産別運動にあらためて確信をもつとともに、21 世紀のたたかいへの決意をかためあいました。

大会は先の通常国会で「医師・看護師増やせ」の請願が参議院で全会一致採択されたことで、法改正による増員が現実的な課題となり、国の財政保障など今後の具体的措置をもとめていく新たな決意の場となりました。この間医労連が全国でとりくんだ 5300 名が参加した 10.27 中央大集会、100 万名を突破した国会請願署名、684 に到達した地方議会決議、衆参国会議員 103 名からの賛同が大きな力になったこと、新聞・テレビなどマスコミは全国・地方紙が医師・看護師不足の実態をこぞって報道、おおきな世論になっていることが報告されました。

57 名の代議員から発言があった二日目の大会討論では、採択された増員請願署名を実効あるものにするため 10.18 集会成功と増員の決意、介護労働者の地位向上をめざして運動をする決意、住民要求と結合し地域ぐるみで進められている増員闘争と自治体決議をめざす取り組みや国公立医療機関の存続拡充を求める各地でのたたかい、経営者の成果主義賃金導入などに組織拡大で力強く反撃するたたかい、社会的役割を発揮する 20 万医労連の早期実現への決意などはいずれも確信に満ちあふれるものでした。先進的なこれらのたたかいには満場からの拍手とともに運動から教訓を学ぼうとする代議員の真剣な姿がありました。また、若い代議員の発言が多かったことも特徴的でした。

現在、7 月 29 日投票で安倍自公政権の審判を問う参議院選挙が闘われています。

政府は 08 年度からの「後期高齢者医療制度創設」にみられるように、医療保険制度の抜本改悪を進めようとしています。さらに医師不足などもテコにしながら自治体病院、労災病院、社会保険病院など公的病院の廃止や移譲による縮小再編、療養病床削減も強引にすすめ地域医療を崩壊させようとしています。患者さんや地域からは悲鳴が上がり、怒りが沸騰しています。

また、政府は、国民投票法案を先の通常国会で強行採決、世界に誇る憲法 9 条を改悪し、日本を戦争する国に引きずりこもうとしています。一方で改憲に反対する 9 条の会が全国 6000 を超えて広がっています。「国民の命に責任を負う医療労働者は再び白衣を戦場の血で汚さない」との決意でわたしたちは 50 年間運動してきました。この運動を受け継ぎ憲法改悪阻止のために全力で奮闘しましょう。

医療を守る、そして平和を守るわたしたち一人一人の決意を参議院選挙への投票でしっかり示しましょう。

50 年の日本医労連の闘う歴史をしっかり引継ぎ、心をつなげて統一と団結をさらに強め、21 世紀の医療産別の運動をしっかり進めていこうではありませんか。

以上、宣言します。

2007年7月26日

日本医療労働組合連合会 第57回定期大会